

第4回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会等 会議要旨会議録

会議名	第4回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会・ 第3回 瑞穂市地域福祉活動計画策定委員会
開催日時	令和2年12月4日（金）13時30分～
会場	瑞穂市総合センター2階 交流ルーム
出席者	委員：14名（欠席者：国枝委員） 事務局：健康福祉部長、地域福祉高齢課長、総括課長補佐、社会福祉協議会職員、委託業者（株式会社ぎょうせい東海支社）
次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 ・地域福祉計画・地域福祉活動計画素案について 4 その他
配布資料	・第4回瑞穂市地域福祉計画策定委員会・第3回瑞穂市地域福祉活動計画策定委員会次第 ・地域福祉計画・地域福祉活動計画（素案）
議事概要	1 開会 事務局の進行で開会 2 あいさつ 平塚健康福祉部長よりあいさつ。 3 議事 豊田会長の進行のもと、事務局より資料の説明。その後質疑応答 4 その他 事務局からパブリックコメントの実施（1月）、次回会議日程（2月）を報告

■議事要旨

地域福祉計画・地域福祉活動計画素案について

豊田会長：事務局より説明を。

事務局：地域福祉計画・地域福祉活動計画素案について説明。

豊田会長：事前にご意見をいただいた部分を素案に反映してもらっているが、ご意見等あればお願いしたい。

渡邊委員：自治会を代表して出席しているが、計画で地域や自治会への要望が多いと感じる。市内の97自治会のうち、多くの自治会では自治会長が1年で代わる。そうした自治会では継続して何かに取り組むことが難しく、市の要望に対応できるのか。また、自治会の組織率が低下傾向にあり、未加入の人も増えている一方で、地域福祉の対象となる困難を抱えている人こそ自治会に加入していない可能性がある。そうした人への対応は誰がするのか。地域、自治会といわれるが、現在、地区社協は市内にないし、第2層協議体も4校区のみであり、実情は対応が困難であることを認識してほしい。老人クラブ、PTAなど様々な地域の団体が一緒になってやらなければならない。

豊田会長：地域共生社会といわれているが、地域といわれても、地域で解決できる体制にはなっていないのが実情である。そうした現状ではあるが、地域共生社会を目指し進めていかなければならないと思う。

竹本委員：自治会に関連して、支え合う関係のためには、知り合う関係、つながる関係をつくる必要があるが、計画ではそうした関係があるという前提となっている。現実には難しいところもあるが、そうした支え合う関係は作らざるを得ないと思う。また、自治会活動をした上で実感することは、支援するという構えではなく、困っている人も一緒にやろうという姿勢が重要だと思う。

水谷委員：隣の方は自治会に入っていない。ずっと住んでいる方と転入者の意識の差がある。また、ボランティア活動を始める時にハードルがあるので、研修や勉強ではなく、なんとなく参加できる場所などがあれば間口が広がると思う。

麓委員：修正提案の中にあっただが、相談は相談を受けることが目的ではなく、相談事を解決することが重要であると思う。相談を解決することが目的であるという旨の研修が必要だと思うので、そのような表現を追加していただきたい。

畦地委員：委員のご提言に正直なところ市は対応しきれてはいないと思う。地域福祉計画が市全体の福祉の方向や目標、事業をもれなく含んだ計画であることを考えると、抽象的な表現もやむを得ないと思う。地域の自治会、これからつくる地区社協などで、地域で受けることも重要であるが、渡邊委員のご指摘にあったように、地域に投げる

というような姿勢ではなく、地域、住民、市、社協が連携し、一丸となって進めることが必要だと思う。地域福祉計画は全体を指し示す指針であり、市がこの計画に基づいて施策をどう進めていくか、この計画の進捗を注視しつづけていただければと思う。

事務局：市、社協、地域でタッグを組んで取り組んでいきたいと思う。今後の予定として、パブリックコメントを1月に実施、実施後、2月に策定委員会を開催し、最終確認をしていただきたいと思う。なお、新型コロナによる影響次第では書面会議の可能性もあることをご了解いただきたい。

以上